

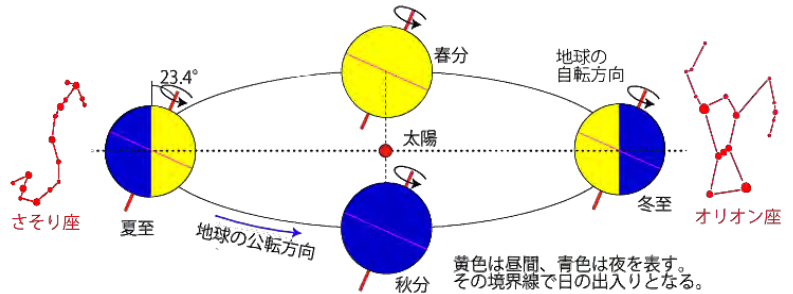
ジオスペース館だより

【**知って楽しい!**
天文の基礎知識(10)】

★なぜ季節によって見える星座が違うの？

星空を眺めると、「春・夏・秋・冬」、季節によって見える星座が違います。季節ごとに、午後9時頃南の空に見えるのが「季節の星座」で、それぞれの代表的な星座は、春は「しし座」や「おとめ座」、夏は「さそり座」や「いて座」、秋は「ペガサス座」や「みずがめ座」、冬は「オリオン座」や「おうし座」があげられます。ではなぜ、季節によって見える星座が違うのでしょうか？

例えば、冬の今、南の空で「オリオン座」を毎日、同じ時刻に観察してみると、「オリオン座」だけでなく、ほかの星座たちも少しずつ西の方へ動いているのがわかります。これは地球が太陽の周りを1年かけて1周（公転）するために見られる動きで《星の年周運動》といい、約1年で元の位置に戻ります。図のように、地球が公転にすることによって冬至の位置にくると、北半球は冬、太陽に向いている面が昼、反対側は夜です。昼側の方向にある「さそり座」は、太陽の光で明るいため見ることはできませんが、夜側の方向にある「オリオン座」は見るることができます。一方、地球が、夏至の位置にくると、昼側の「オリオン座」は見ることはできませんが、「さそり座」は見るることができます。

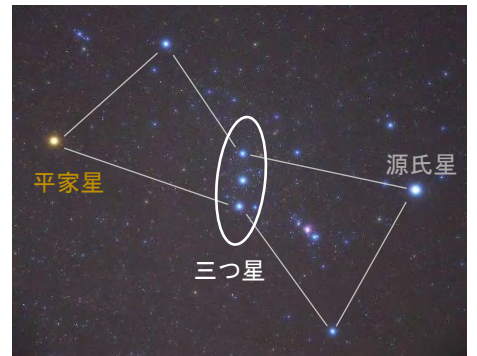


黄色は昼間、青色は夜を表す。その境界線で日の出入りとなる。
国立天文台の説明図に星座の図を加えて作図

このように地球の公転によって、見える星座は毎日少しずつ変わるため、季節によって見える星座が違います。また、地球は太陽の周りを約1年で1周（360度）しますから、1年後の同じ日、ほぼ同じ時刻、同じ位置に、同じ星座が見えることになります。

★ みつぼし(三つ星) 【星の和名のお話】

「三つ星」は、冬の星座「オリオン座」の3つの星、その星たちの和名です。昔から、農作業の季節や時刻、漁業の目標を示す、目印の星として親しまれ、「みつぼっサン」、「みつがみさま」という呼び名も全国各地に伝わっています。他にも、3つの星が並んで輝いているので「三光」、「三丁(さんちょう)の星」、「三星様(さんじょうさま)」、「三大星(さんだいしょう)」、「三つ連様(みつれんさま)」など、古くから親しみを込めた和名が数多く伝えられています。



★ 月と惑星たちの共演に注目!

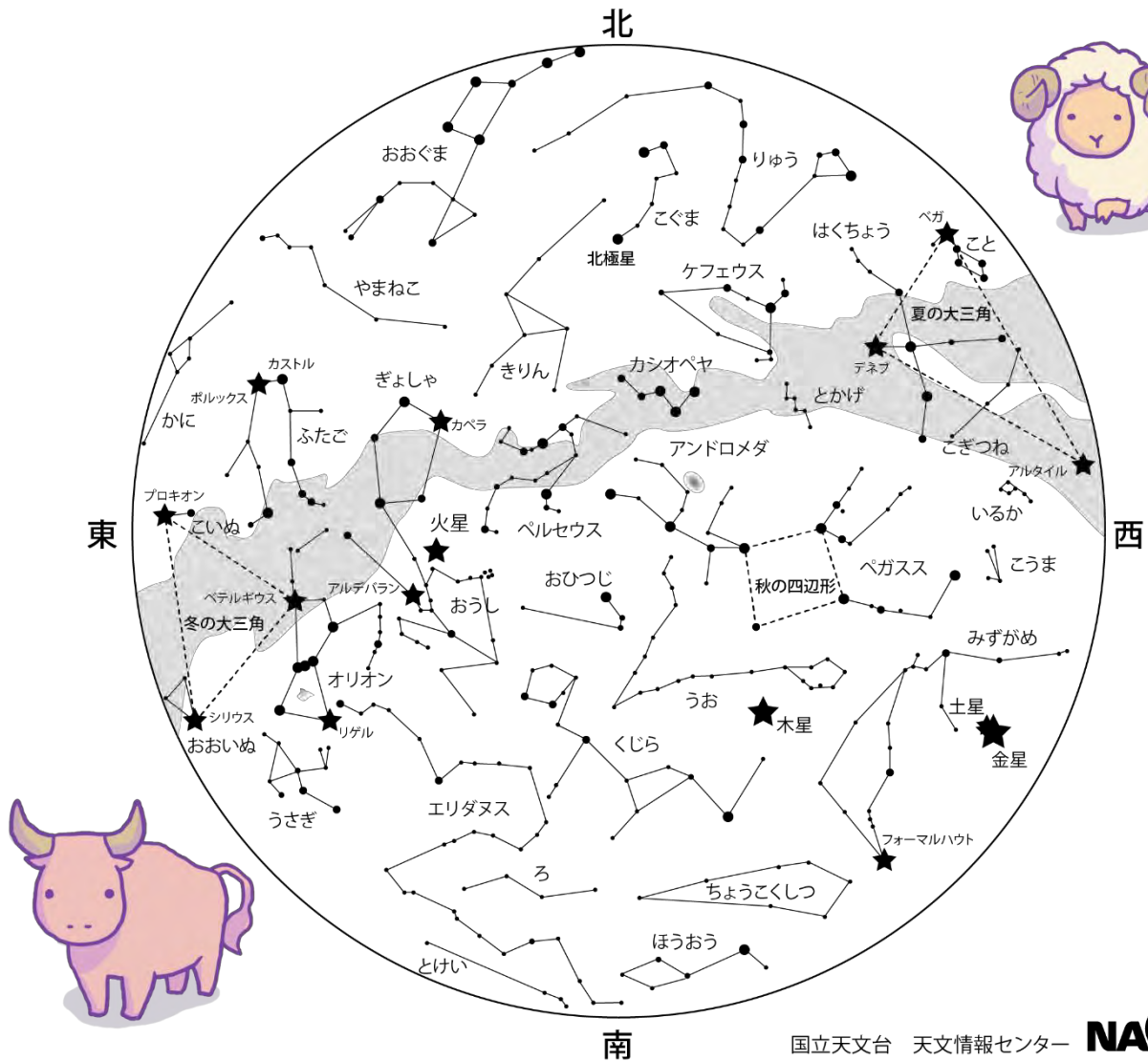
1月23日、日の入り後の「宵の明星」の金星の近くには細い月が見えるのと同時に、土星がもっと近くに見えます。26日には、南西の空の高い位置に、明るく輝く木星と三日月よりも少し太くなった月が並びます。また、1月30日から31日にかけて、日の入り後1時間ほどたつと、南東の空の高い位置に火星があり、上弦過ぎの月が火星に近づきます。この頃の火星の明るさは約0等、12月に地球最接近した火星はまだまだ見頃が続いています。月の形や惑星との位置、1日1日の動きなど、この機会に是非、観察してみてください。



星図はステラナビゲーター11を用いて作成

☆☆ プラネタリウムは、工事のため1月~3月は休館しています ☆

1月下旬午後6時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 1月下旬の主な天文現象

20日(金) <small>だいかん</small> 大寒、下旬はZTF彗星が見頃	26日(木) <small>ちくせい</small> 月が木星と接近
22日(日) ● <small>しんげつ</small> 新月	29日(日) ● <small>じょうげん</small> 上弦
23日(月) 夕方金星と土星が接近、月も近づく	30日(月) <small>すいせい</small> 水星が西方最大離隔
	31日(火) 月が火星に接近

★ 国際宇宙ステーション (ISS) 豊川での主なデータ 1/15~31 ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 1月15日(日) [見やすさ ◎]	18:00 南	~	18:04 東
◇ 1月16日(月) [見やすさ ◎]	18:48 西南西	~	18:51 北西
◇ 1月17日(火) [見やすさ ◎]	17:59 南西	~	18:05 北東
◇ 1月19日(木) [見やすさ ◎]	17:59 西	~	18:05 北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。